

新聞に親しみ、自己の思考力・判断力・表現力を磨いていく生徒の育成

日南市立細田中学校

教 諭 熊瀬川 貴 晶

1 はじめに

本校は、海や山、田畑に囲まれた自然豊かな場所に位置し、全校生徒61名がのびのびとした学校生活を送っている。朝のあいさつ運動や地域の清掃活動などにも積極的に取り組んでいる。また、学校行事やPTA活動等に、地域の多くの方々が協力的であり、生徒は、各学年の実態に応じた様々な体験活動・交流活動を行うことができている。一方では、学力に関する各種調査の結果により、本校の生徒は、知識・技能は一定程度定着しているものの、思考力・判断力・表現力を発揮して知識・技能を活用する点において苦手意識が感じられる実態が明らかになってきている。

そこで本校は、NIEの取組を通して新聞に親しみながら、思考力・判断力を養い、自分の考えや意見を相手にどのように伝えるのか、表現力を磨いていく生徒の育成に向けて、試行錯誤しながら実践を行ってきた。本校は、平成27年度よりNIE実践指定校となり、本年度が実践1年目となる。

2 学校としての取り組み

① 「新聞コーナー」の設置

宮崎日日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞、日本経済新聞の6紙を、各月ごとに2紙ずつ織り交ぜながら教室前で読めるように設置した。昼休みに、生徒が気軽に新聞に親しめる環境を整えた。「朝の会」での1分間スピーチでも活用できるようにした。



【「新聞コーナー」】

② 「先週の一面」「今週の新聞書評」の設置

1週間分の新聞紙の第1面をまとめて掲示することで、世の中の動きに対して興味・関心を高めさせることができた。図書室前には、書評や特集記事などを掲示し、読書への意欲を高めさせた。



【「先週の一面」】



【「今週の新聞書評」】

3 実践事例① ～授業実践～

第3学年B組 国語科学習指導案（授業デザイン）

1 授業日・授業クラス

平成28年1月25日（月）3校時 3年B組

2 単元

「喜・怒・哀・楽」を探そう！

～新聞からスピーチの材料を集める～

3 本時の目標

新聞から「喜・怒・哀・楽」に関するスピーチの材料を集め、発表会をする。

観点【A話すこと・聞くこと（1）ア、（2）ア・イ】

4 授業の流れ

導入

（1）新聞を読み、「喜・怒・哀・楽」のどれかに当たる記事を探しておく。

（国語辞典や電子辞書を準備し、分からない言葉の意味を事前に調べさせる。）

（2）本時の目標を確認する。

展開

〈共有課題〉

※（3）①いくつか記事を見つけた上で、スピーチとして伝えたい記事を選ぶ。

②記事を切り抜き、ワークシートに貼る。

③5W1Hを抜き出し、要約を書く。

（記事の「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」にあたる箇所に線を引かせる。これらの要素をつなぎ合わせれば、最もシンプルな要約になる。）

〈ジャンプ課題〉

※（4）①「喜・怒・哀・楽」のどれかにした理由と、記事から考えたことを書く。

（根拠を明確に、聞き手を意識して分かりやすくまとめさせる。）

②今後さらに知りたいことや考えたことについて書く。

（探究的に課題を設定させる。）

まとめ

※（5）発表会をする。

①発表会は次のことについてスピーチする。

・記事の説明（要約を基に） ・写真の説明（写真があれば）

・記事を選び「喜・怒・哀・楽」のどれかにした理由

・記事から考えたこと ・さらに知りたいことや考えたいこと

（6）本時の内容をまとめる。

授業参観の視点	良かった点	今後の課題点
1 学習意欲をもたせる手立ては有効だったか。	・黒板に1時間のスケジュールを示し生徒が見通しをもてるように工夫されていた。 ・授業の流れの板書、確認は自分の授業でも必要だと感じた。 ・さし絵のある資料付きの新聞で分かりやすく取り組みやすい。 ・教師の示した新聞記事に色分けがしてあって大事なところがどこに書かれているか分かりやすい。 ・机に、いつでも手に取りやすいように国語辞典や電子辞書が置かれていたのはよかった。	・記事に蛍光ペンを入れたところを提示装置でモニターに映し出せるといい。 ・導入で教師側が示した一面記事の蛍光ペンの色使いについて、生徒側から何か質問が出るとよかった。 ・教師側が提示したニュース記事と同じような記事を使って練習すると5W1Hを見つけやすかったかなと思う。 ・電子辞書でキーワードを調べさせるのは、最後ではなく最初の段階がよかったのでは。
2 生徒が主体的・協働的に学ぶ手立ては効果的であったか。	・記事が準備されてやる事が明確になっていた。 ・長い文章を集中して読むことができていた。 ・アドバイスを受けながら、主体的にシンプルな要約をまとめていた。	・5W1Hについて生徒からの発言がほとんどなかったのも、「いつ」「どこで」の部分は生徒に読ませたり、教師のあとについて言わせたりしてもよかったのでは。 ・5W1Hに線を引く練習が1回あるとよかったのでは。
3 本時の目標（ねらい）は達成されたか。	・難しそうであったが、しっかりとまとめていたと思う。 ・必要な材料とそうでないものを考えて分けていた。	・本時、扱ったことも新聞の記事をそれぞれ5W1Hで分解して読んでいくのは難しいと感じた。 ・スピーチの材料をあの量の記事から主体的に探すことは難しそうだった。
～その他・気づいたことなど～ ○ 普段と違う雰囲気緊張している様子だった。いい経験ができて良かったと思う。 ○ こども新聞だったが、いろいろと詳しく書いてあるので、良い資料だと思った。 ○ 電子辞書を使って分からないことばを調べる態度を育成することは大切だと思う。		



【授業の様子】

実践事例② ～新聞スクラップの作成～

年間の国語科の授業を通して、新聞スクラップ作りを行った。生徒が、自分自身の興味・関心がある記事を切り取って、ワークシートに貼り付け、「記事の要約」「記事の感想」「分からない言葉の意味」を国語辞典を使いながらまとめた。一人一分程度でのスピーチ発表も行った。

新聞スクラップ ワークシート 氏名()



福岡、マンション建設加速

記事を短くまとめてみよう

記事を読んだ感想

分からない言葉の意味

新聞スクラップ ワークシート 氏名()



文化庁 数年内に京都 政府方針決定 効果未知数 声も

記事を短くまとめてみよう

記事を読んだ感想

分からない言葉の意味

【生徒による新聞スクラップ】

4 成果と課題

① 成果

- 「新聞コーナー」の設置や、「先週の一面」「今週の新聞書評」の掲示によって、生徒自身が新聞をより身近なものに感じ、少しの時間でも新聞記事を読む生徒が増えていった。
- 「朝の会」「帰りの会」において、教師による新聞記事を使った話を多く取り入れることで、より生徒の新聞への興味・関心を高め、世の中の動きについても自分なりの問題意識を高めることができた。「一分間スピーチ」での生徒の発表内容の質も向上が見られた。
- 国語科の授業において、継続的に新聞スクラップを作成したことで、記事の要約の仕方や、言葉の意味や語彙力の幅を広げ深めることができた。

② 課題

- 次年度、国語科の授業だけではなく、より多くの教科等の授業において、新聞を活用した授業実践を行うことで、生徒の思考力・判断力・表現力をより高めることができるもの考える。
- 新聞を読むことを通して、そこを入り口として、生徒が興味・関心をもったことに対して、より詳しく調べたり、関連する図書を読んだりといったものにつげられるように支援していきたい。